

ふるさと姫路を愛し、主体的に地域社会に関わり、 地域の発展に貢献する子供の育成

「令和7年度 世界遺産学習全国サミット in ひめじ」に向けた取組

姫路市教育委員会

1. はじめに

令和7年3月に、「未来をひらくふるさと姫路の人づくり」を理念とした「第3期姫路市教育振興基本計画」を策定し、この理念を具現化していくために、姫路型・探究学習を推進している。姫路型・探究学習の特徴は、産官学が連携して姫路の社会全体で子供の学びを支援していく、体験活動等を取り入れた実践重視の学びである点と、以前から推進してきた小中一貫教育を、さらに発展進化させ、幼稚園から、小学校、中学校、高校までの学びを、「一気通貫型」でつなげていく点である。「一気通貫型」とは、幼稚園から高校までの学びを、「学び方」と「姫路の“ヒト・モノ・コト”の利活用」という2つの観点でつなぐことである。「学び方」については、個々の知的好奇心を原動力として、探究のプロセスを繰り返しながら学びを深めていくものである。「姫路の“ヒト・モノ・コト”の利活用」については、市街地、農山村、漁村等、性格の異なる地域を有し、各種産業、有形・無形文化財等が豊富にそろそろ本市の強みを生かした素材を起点とし、学びを深めていくものである。これは、世界遺産姫路城をはじめ、姫路市内の学習材を活用しながら、「郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子供の育成」を目指してきた世界遺産学習と共通点が多く、本学習のさらなる発展充実を図っていく必要がある。



世界遺産姫路城

2. 教育目標

◆「第3期姫路市教育振興基本計画」(令和7年3月策定)

姫路市教育振興基本計画では、基本理念の実現に向けて、学校教育の充実や生涯学習社会の構築に取り組むことにより、下記のような人間が育つことを目指している。

(基本理念)

「未来をひらくふるさと姫路の人づくり」

～すべての人が自分らしく学び、つながる教育を目指して～

(目指す人間像)

○ 自身の可能性を信じ、学び続ける自立した人間

○ ふるさとを愛し、互いの伝統や文化、生き方を尊重し、多様な人々と共生する人間

○ 持続可能な社会の創り手としてつながり、協働できる人間

3. 教育委員会・学校での取組

「令和7年度 世界遺産学習全国サミット in ひめじ」の開催

今年度は、令和7年11月20日（木）、21日（金）の二日間で「世界遺産学習全国サミット」を姫路市にて開催した。「知るほどに好きが広がり人もつながる地域の宝」を大会テーマに掲げ、多彩なプログラムを実施した。

1日目の実践発表では、「姫路城下町スクールサミット」に参加する姫路城周辺の7校の子供による実践発表を実施した。各校の子供は、総合的な学習の時間で、姫路城を中心とした歴史、伝統文化、保存活動、多文化共生など、自ら設定した多様なテーマで探究学習を進めた。当日は、調べたことや今後を見据えた自らの考えを全国の参加者に向けて、ポスターセッション形式で堂々と発表した。テーマをもとに調べたことを発表するだけではなく、姫路城の魅力が伝わるオリジナルゲーム、クイズを交えたプレゼン、より住みよい姫路を実現するための提案など、子供たちの柔軟な発想を活かした多様な表現活動が展開された。また、姫路市立白鷺小中学校教職員による総合的な学習の時間の実践発表では、姫路城を起点として他者のフィードバックを生かしながら自らのテーマをより一層深めていく探究学習の重要性について報告があった。講師である同志社大学の大井将生准教授からは、子供の探究テーマや内容、さらには他者へアウトプットする方法や実現へのプロセスについての価値づけがあり、子供の自己有用感に大きく寄与したと考える。

2日目の全体会は、アクリエひめじ中ホールにて開会行事を行った後、城郭考古学者の名古屋市立大学千田嘉博教授による記念講演が行われた。「姫路城を探究する～教材として見た姫路城の価値～」を演題とした、姫路城の歴史的価値や構造的な魅力を専門的な知見から紐解いた講演は、参加者が世界遺産の奥深さを再認識する貴重な機会となった。さらに、同日午後には姫路城周辺でのエクスカージョンを実施した。「姫路城で学ぶSDGs」をテーマに、郷土史家の芳賀一也氏によるガイドを聞きながら姫路城及びその周辺を歩き、先人の知恵や持続可能な保存継承の在り方を実地で学んだ。

二日間を通して、市内及び全国から延べ547名に参加いただき、姫路市における世界遺産を通じた探究学習を市内及び全国へ発信することができた。



エクスカージョンの様子

4. おわりに

本年度は、サミット開催を通じて「知るほどに好きが広がり人もつながる地域の宝」という大会理念を具現化する貴重な機会となった。特に「姫路城下町スクールサミット」において、子供が自ら問いを立て、探究した成果を堂々と発信した姿は、本市が推進する学びの確かな成果を示すものとなった。

今後は、世界遺産姫路城を教育活動の重要なシンボルとし、市街地から農山漁村まで多岐にわたる本市特有の多様な地域資源（ヒト・モノ・コト）を教材として最大限に利活用していく。また、幼稚園から高校までを繋ぐ「一気通貫型」の探究学習をさらに深化させ、子どもたちが郷土の魅力を再発見し続けることで、ふるさとへの誇りと愛着を深め、未来を切り拓く力を育てていきたい。